

臨床現場紹介——福島県警察本部刑事部科学捜査研究所

杉野 信太郎

1. はじめに

私は、2014年に作新学院大学大学院心理学研究科を修了し、現在は、福島県警察本部刑事部科学捜査研究所（以下「福島科捜研」）に勤めています。私の職場は臨床の現場というわけではありませんが、臨床心理を学んだ先の進路の1つとして簡単に紹介させていただきます。

2. 科学捜査研究所について

「科学捜査研究所」というワードはテレビドラマ（『科捜研の女』）などで耳にすることも多いかもしれませんが、名前の通り、科捜研は警察の組織です。そのため、科捜研では、警察の取り扱う刑事事件に関連する資料を鑑定することを主な業務としています。また、鑑定のみならず、鑑定に携わる種々の研究活動も業務の1つです。科捜研は各都道府県警察に設置されていますが、私は福島県警察の採用試験を受けたので「福島科捜研」の所属になります。科捜研の研究者は、いわゆる科学捜査の分野を担当するわけですが、「刑事」のように聞込み捜査や犯人逮捕はしません（ここがドラマと違うところでしょうか？）。

福島科捜研は福島市郊外の自然豊かな地域にあります。庁舎の西側には山々が広がっており、仕事に疲れた時などはその壮大な景色を見てリフレッシュしています。研究員は22名で、私は心理及び文書業務を行う「人文科」に所属していますが、他には血液やDNAなどを扱う法医科、薬毒物や微物などを扱う化学科、拳銃や刃物などを扱う物理科があります。

3. 福島科捜研での仕事について

私が所属する人文科は、人員3名で、先に述べたように、心理業務（ポリグラフ検査、

犯罪者プロファイリング）と文書業務（文書に関連する種々の鑑定）を担当しています。

以下、人文科での業務や福島科捜研での働き方について紹介していきます。

（1）ポリグラフ検査

ポリグラフ検査と言うと世間では「ウソ発見器」というイメージが強いかもしれませんが、実際は「認識（知っているか）」を調べる検査です。犯人しか知らないはずの事件の詳細について選択肢を呈示して質問し、自律神経系の生理反応から「本当に知らないのか、それとも本当は知っているのか」を判断していきます。犯人しか知らないはずの多くの事件情報を「本当は知っている」となれば、その人の犯人性が高まることとなります（ポリグラフ検査は鑑定であり、検査結果は裁判の証拠になり得ます）。科捜研における数ある業務の中で、ポリグラフ検査は唯一実際の犯人と対峙する可能性のある業務と言えます。人を相手にする難しさがある分、やりがいも大きい業務です。

（2）犯罪者プロファイリング

犯罪者プロファイリングは、連続して発生している放火事件やわいせつ事案を対象に、発生場所の分布や事件情報を分析することにより、犯人の居住地や特徴、次回犯行地などの推定を行う捜査支援業務です。事件を捜査する警察官の役に立てるよう、多大な事件資料を分かりやすくまとめるスキルが求められます。また、説得力のある分析を示すことで、自身の分析が犯人逮捕のきっかけとなる可能性を秘めている業務です。

（3）文書鑑定

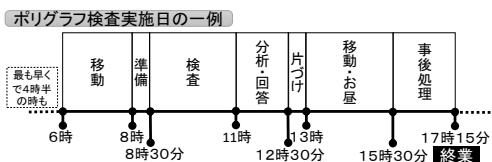
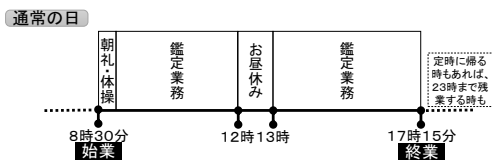
文書鑑定は、文書に関連する多岐にわたる鑑定（筆跡、印影、印刷、偽造、不明文字な

ど)を行うため幅広い知識が必要となる業務です。例えば、筆跡鑑定では、誰が書いたか分からない資料と書いた人が明らかな資料を比較し、同一人物が書いたものかどうかを判断していきますが、鑑定のためには個々の文字に関する知識(筆順や異字体など)が必要となってきます。その他の鑑定でも、印鑑の作成方法に関する知識、印刷技術に関する知識、通貨の偽造に関する知識など、常に新しい知識を吸収していかなければなりません。昨今は紙媒体の電子化が進んでいますが、まだまだ文書は数多く存在しており、私たちの最も身近な鑑定と言えます。

(4) 働き方

警察組織は勤務形態が複雑であったり、長時間の勤務に従事しなければいけないイメージがありました。科捜研での勤務形態は、基本的には役所などの他の地方公務員と同様でした(福島科捜研は8時30分始業の17時15分終業、土日祝日休み)。

そのような中で、依頼された鑑定の進捗状況を見ながらその日の業務を決めていきます。ある程度自分でタスクの管理ができる一方で、警察組織という性質上、「事件の発生」によっては状況が大きく変わってきます。と言うのも、事件はいつ発生するか分からず、事件によっては急ぎで鑑定を行わなければいけない場合があるからです。人文科で言うと、特にポリグラフ検査は捜査の状況に合わせて実施する必要があるため、当日に依頼があったり、



早朝から出勤したりするケースがあります。時間があると思っても、事件の発生によって急に忙しくなったりするため、見通しを持って業務を進めなければいけません(まだまだ難しいです...)。

(5) 働いて感じたこと

今年で福島科捜研に入り3年目となりましたが、ようやく最初の研修を終えたばかりで、まだまだ先は長いといった感じです。ただ、少ない経験ながらも、科捜研の業務は人ひとりの人生を左右するかもしれない責任の重いものだと感じています。そのため、自身の鑑定に全力を注ぎ、それが事件解決に役立った時の達成感は大きいかもしれません。また、ポリグラフ検査業務を行う中では、「人を見る力(アセスメントの力)」が特に重要になってくるように感じています。臨床活動とは目的も枠組みも異なりますが、検査を円滑に進行するために、相手がどのような人物で、どのような状態であるかを適確に把握できるようになればと思っています。

4. 科捜研への就職を考えている方へ

科捜研の心理職は県の心理職ほど採用が多くありません(採用が出ない年の方が多く、採用があっても1人だと思われま)。そのため、特定の都道府県だけというよりは、その時募集のあった都道府県をなるべく多く受けてという人が多いように思います。また、試験は心理学分野が幅広く問われるため、どちらかと言うと基礎的な心理学の勉強を行っておく必要があると思います。

5. 最後に

以上で、私の職場紹介を終わります。科捜研の仕事は、直接的には臨床と関わりがないかもしれませんが、臨床心理学の知識・経験を生かすことのできるやりがいのあるものだと感じています。心理学分野の就職先の1つとして、今後の進路を検討する際に少しでも役に立てていただけたら幸いです。